



設計主旨 concept

川崎フロンターレのホームタウンにサッカー専用スタジアムを新設する計画である。近年サッカーを中心とした街づくりが地方都市をはじめとして盛んになっているが、サッカースタジアムというビルディングタイプは数千年前から変化することなく形式化しているといえる。そこで僕は従来分離されてきたスタンドとコンコースなどの裏動線を一体としてデザインすることで無駄なスペースを減らし、全体としてもスムーズな動線を実現した。さらに既存のシステムでは観客が固定された視点からしか試合を楽しむことができないという問題に着目し、観客が自由に移動できるフリーアドレス式の座席と動線を設計した。メビウスの輪のようにお互いに絡み合うひとつながりの動線は観客の自由な移動を担保すると同時に敵対関係にあるホームとアウェイサポーターを分離する役割を持つ。スタジアム全体の構造は斜めになった向かい合うスタンド同士をケーブルで結んでバランスをとっている。張力のかかったケーブルに膜を張って構成される屋根形状は雨水排水経路と観客の視野確保を両立するように調整されている。

